

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2012年12月15日）

今回の野田村行きでは、3つの支援・交流活動を行いました。いつもの学習支援（&遊び）に加えて、野田中学校仮設住宅集会所での弘前喫茶（市民交流茶話会、アロマを使ったものづくり、ハンドマッサージ、学習支援（&遊び））と、フリーマーケット（関西のNVNAD主催）サポート。弘前喫茶は、市民グループ・エンジェルハンドのご協力によるものです。



道の駅おりつめてにて



野田中学校仮設住宅集会所

参加者は32名で、内訳は、学生26名、一般5名（うちエンジェルハンド3名）、教員1名。行きのバス車内の自己紹介で、初めて、または1、2回の参加経験の方が大多数と分かり、野田村の被災状況やボランティア活動の留意事項を、ご参考までにお伝えしました。

仮設住宅集会所では、役場の説明会の後、女性10名ほどと子どもたち数名が残って、私たちの到着を待っていました。午前は、10数種類のアロマの香りを楽しんだ後、せっけん作り。無添加、無香料のせっけんの素に、精油とフローラルウォーターを選んで、ビニール袋に入れて混ぜ合わせ、こねてから型にはめると、ハートや動物の形のせっけんになりました。子ども、学生、大人の皆が熱心に取り組んで盛り上がり、可愛らしい手こねせっけんが並びました。仕事で忙しいお母さんにプレゼントするという女の子も。



せっけんの素をこねる



乾かされているせっけん

昼食は、いつもの「かまどのつきや」のお弁当で、野田塩をまぶしたおにぎりなどの素朴な味を楽しんだ後、午後は、入居者とボランティアでペアになって、ハンドマッサージを行いました。男子学生は集会所の端で学習支援（子どもとの将棋、積み木やキャッチボール）に回ったため、ハンドマッサージは女性のみ。初めはお互いに恥ずかしそうでしたが、エンジェルハンドの方の指導の下、アロマを手や腕に塗り、手をつないでいるうちに、体が温まり、心も開かれたのか、次第に会話が弾み、表情がほころんでいきました。入居者の方々からは、眠れない、早く本当の家に住みたい、この頃やっとな涙を流して泣けるようになった、津波で生き残ったので生きていけないなどと、思いが語られていきました。



子どもとの遊び



ハンドマッサージ

活動中は、コーヒーやお茶を淹れました。途中、男子学生が体調を崩した際は、居住者の方が仮設住宅へ戻ってアイスを差し入れて下さり、恐縮しました。最後は、エンジェルハンドの方々のお手製アップルケーキがふるまわれ、好評のうちに活動を終わりました。

あいにくの小雪・雨模様で、総合センターの学習支援は、小学生がいつもより若干少なかったものの、落ち着いて勉強し遊べたとのこと。フリーマーケットのサポートは、村民の方々とお話し、主催の関西の方々たちとの交流もあり、楽しく活動できたようでした。



学習支援



恒例の(?)肩車

帰り際、参加者の要望を受け、海岸沿いに出て、破断した堤防や荒廃した海沿いの風景に触れました。津波の威力の凄まじさに、参加者は声が出ない様子でした。その後、道の駅に立ち寄り、野田村の特産品などを買い求めました。



海岸の風景



道の駅の道のレジ前の行列

帰りのバス車内の感想では、「支援に来たつもりだったのに、元気な野田村の皆さんと交流してかえって元気づけられた」、「色々なお話を伺えた」、「子どもたちの方から積極的に遊びたい、勉強を教えてもらいたいと言ってくれた」、「顔を覚えていてくれて嬉しかった」、「楽しい時間を過ごせた」、「また来てね」「もう帰っちゃうの」と言われた、「また参加したい」、などの声が多く聞かれました。温かく迎え入れていただいた野田村の皆様感謝しなければなりません。村民の方々の気遣いが感じられ、ボランティアというよりも交流に近く、野田の方々とハンドマッサージをし合っているような関係なのかもしれません。

その他に、参加者からは、「仮設住宅を訪れて寒いと感じた、本当に最低限の住まいだと分かった」、「フリーマーケットでお婆さんに「お互いまた生きて会えたら良いね」と声をかけられて命の大切さを感じた」、「今後も自分なりにできることをしていきたい」、「今度は集会所の掃除をしてあげたい」などの言葉が語られました。

東日本大震災から1年9ヶ月を経て行われた活動でしたが、野田村に赴くと、震災が終わっていないことにあらためて気づかされます。荒廃した風景は、瓦礫が撤去された程度で、ほとんど変わっておらず、仮設住宅で暮らす方々は不自由な生活を強いられています。自宅で被災した方や、借り上げ住宅で暮らす方も、震災前の生活に戻ることはできません。高台移転、公営住宅への入居や土地区画整理後の住居建設に向けた計画は、野田村で、他の地域より進んでいるにせよ、いまだ実現せず、見通しの立ちにくい状況にあります。

今回の活動では、学部1年生の参加が比較的多く、学生事務局も2名とも1年生でした。エンジェルハンドの皆様には大変お世話になりました。今後とも、学生と市民に加えて、関係者や団体と連携しながら、野田村の方々と交流を深めることができればと思います。

(担当：飯考行)